

乳房再建外来について

乳房再建とは、乳癌切除の手術で変形してしまった乳房を手術により元の形態に近づけることです。

その方法にはいくつかあります。大きく分けて、ご自分の組織（自家組織）による再建とシリコンインプラント（人工乳房）による再建があります。また、手術の時期も乳がん切除と同時に行う一次再建と、乳がん切除からある程度期間をおいて行う二次再建があります。

それぞれの再建方法について

【自家組織】一般的に、ご自分の腹部（腹直筋）もしくは背部（広背筋）などから皮膚と皮下組織を移植し乳房を再建する方法です。

長所としては、下垂した形も再建しやすく、柔らかく、体温を感じられるなどがあります。

短所としては、組織採取のため新しい傷を作らなくてはならない、手術時間が長く身体への負担が大きいことなどが挙げられます。

【シリコンインプラント】柔らかいシリコン製の人工乳房です。2013年7月より保険適応となり多くの施設で行われるようになってきました。

長所は、手術時間が短く入院期間も短いため、比較的早く社会復帰ができることです。

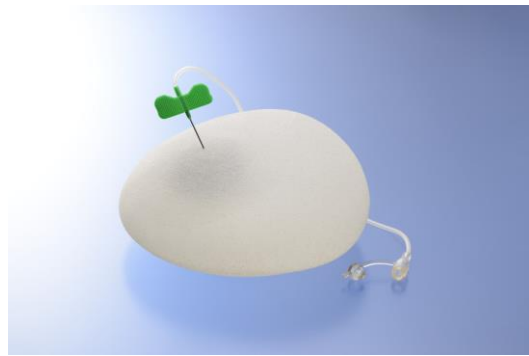
短所としては、人工物であるため感染のリスクがあり術後も定期的に外来通院して頂き（1年に1回）、破損や感染の有無を確認していく必要があること、下垂した形が作りにくいことなどがあります。

当院での体制について

当院では、シリコンインプラントによる乳房再建のみ対応しております。また、現時点では二次再建（乳がん切除して半年以上あけてからの再建術）のみ行っております。乳がん手術後は皮膚も切除されているため、シリコンインプラントを挿入するための皮膚の余裕がありません。そこで、まずはティッシュ・エキパンダー（皮膚拡張器）を挿入し、皮膚を十分に伸ばしてからシリコンインプラントへの入れ替え術を行います。



シリコンインプラント（アラガン・ジャパン提供）



ティッシュ・エキスパンダー（アラガン・ジャパン提供）

保険適応のティッシュ・エキスパンダーやシリコンインプラントを用いた乳房再建術は日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会の認定を受けた施設でのみ可能であり、当院も認定施設となっております。

当院で乳房再建術をご希望される患者様は、当院外科・乳腺外科にて乳がん切除術を受けた患者様のみに限らせていただいております。将来的には、乳がん切除術と同時にティッシュエキスパンダーを挿入し、その後シリコンインプラントに入れ替える一次二期再建も可能になる予定です。

乳房再建をお考えの患者様・ご家族へのご案内

以下もご参照ください

発行元 アラガン・ジャパン株式会社

http://nyubo-saiken.com/common/pdf/mund_therapie_slide.pdf

乳房再建外来について

2017年5月より、毎週水曜日 午前10時から12時まで完全予約制の外来を開設いたします。乳房再建はいくつか方法があり、治療期間も（ティッシュ・エキスパンダーで皮膚を拡張してから自家組織もしくはシリコンインプラントでの再建までは）1年近くかかる治療です。患者様にご安心して頂けるようゆっくりご説明していきたいと考えております。

乳房再建外来担当：浅井晶子

形成外科専門医

乳房再建エキスパンダー・インプラント責任医師